



## 行動へ

学年末5段階評定で評定平均が4.3以上、つまり、指定校推薦も含め、ほとんどの推薦で推薦基準がクリアできるという優秀な諸君が、この学年には37名いる。なんと、その中に、25Rからは6名もの諸君がエントリーしているではないか！

毎回成績が出るたびに悲しい思いをしてきた担任としては、意外というほかないが、何にしるイイことには変わらない。ぜひ、この6名の諸君には、さらなる高みを目指してほしいし、6名の名前を見て顔を思い浮かべながら、「アイツがそうなら、もしかして自分にもできるのではないか…？」などという大それた野望を抱いた人も、ぜひがんばってもらいたいものである。

### <学年末評定TOP 6 >

- |   |             |     |
|---|-------------|-----|
| 1 | ●● (学年7位)   | 4.7 |
| 2 | ●● (18位)    | 4.4 |
| 3 | ●● (22位)    | 4.4 |
| 4 | ●● (31位)    | 4.3 |
| 5 | ●●・●● (35位) | 4.3 |

\*同じ評定で順位に差があるのは、小数点第二位が違うから。

ちなみに、学年トップは4.9の女子で、保健が4以外は全て5である。いやはや…。

\*

学校の成績と入試の成績とは必ずしも連動しないと思っている人もいると思う。確かに中学校までは、学校の成績はよいけれど模試の結果が思わしくないとか、その逆とか、極端な人がいたかも知れないが、進学指導重点校として、進学をメインに授業を展開している日比谷の場合、1～2年生の頃には連動していないように見えても、最終的な受験結果

はほぼ連動したものとなる。だから、「学校の勉強は暗記して何とかなっているが、何も範囲のない入試が心配」という人も、決して心配することはない。範囲のある考查をきちんとこなし、その範囲のことをきちんと積み重ねていけば、わざわざ塾や予備校に行かなくても、それが入試の結果に直接結びついていくのである。

ただ、範囲のある考查の時でさえ、その範囲の学習が不十分だったり、付け焼き刃だったりすれば、それが入試の実力に結びつかないことは明かだろう。その点、自分はどうだったのか、しっかり振り返ってみてほしい。

3年生になっても、当然のことながら授業があり、それを踏まえた考查がある。1～2年生の時に、考查をしっかり受けきれていなかった(範囲が終わらなかった、副教材が終わらなかった、理解せずに必死に暗記だけで切り抜けた…)経験がある人は、それを改善することが、入試に向けてする準備の第一歩であることを認識しよう。考查は今まで以上に実戦的になるから、それをきっちり受けきることは、そのまま受験の準備につながる。

朝8:20から最低限お昼まで、自選を選択した人は15:10まで学校で過ごすのである。その時間を有効に活用すること、つまり、予習・復習で授業を大切にして、与えられた副教材を計画的にこなし、小テストなどもそのたびごとに自分のものにしていく、そういう繰り返しキチンと出来るかどうか、現役で志望をかなえられるかどうかと大きく関わってくるのである。学校の授業を生かすも殺すも自分次第。その認識を行動へ。